



朗読音声のダウンロード
Audio download

LEVEL
4

ポール・ジャクレー

かる いざわ あい じん そくへん
～軽井沢を愛したフランス人 [続編]～

★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

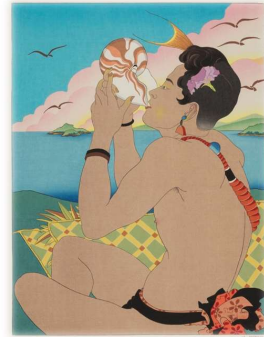
1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む

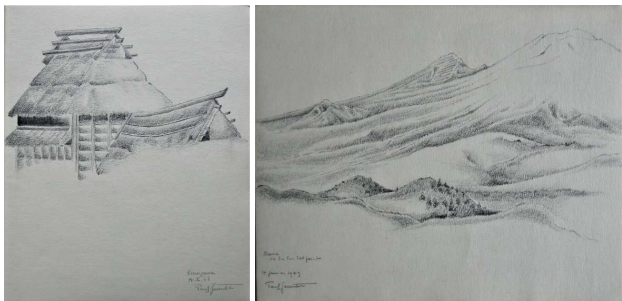


《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





くつかけ からいざわ おん
番掛・軽井沢 (1948年)

あきまやま からいざわ おん
浅間山・軽井沢 (1949年)

ジャクレーのスケッチ



そうですね。外国人だから、いつも警察に見張られて、日本人と自由に話すことも難しかったです。



戦争中に、外国に住むのは大変だっただろうなあ。



はい。一九四一年に太平洋戦争が始まりました。そして、一九四四年に東京から軽井沢に避難してきました。ジャクレーは、四十八才でした。



からいざわおんまちあきまやまどくしりょうかん
軽井沢町歴史民俗資料館
[ポール・ジャクレー展]
(2023年)



はい！ここに來てからもう二年も経ちました。ジャクレーさんも私と同じように、東京から軽井沢に引っ越してきたんですよ。



香葉ちゃん、久しぶり。軽井沢の生活には、もう慣れましたか。



こんにちは。私は、香葉です。軽井沢に住む、小学五年生です。今年もジャクレー展が始まったのに見に来ました。



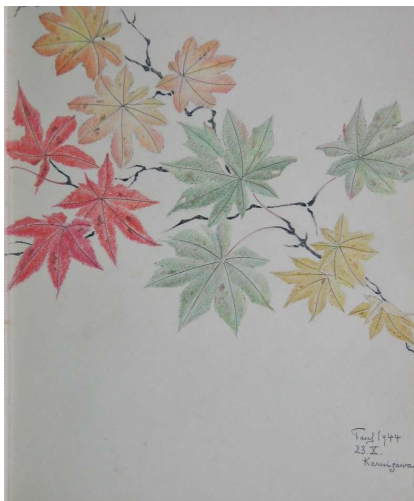
ねん
(1944年)



ねん
「梅」 (1946年)



すてきな絵！



ねん
「もみじ」 (1944年)



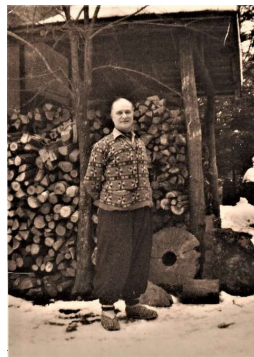
大変なときでも、ジャ
クレーは、絵を描くの
をやめないで、身近な
植物のスケッチをして
いました。版画になっ
ていませんが、美しい
植物のデッサンや水彩
画が残されています。



ねん
畑で・羅兄弟 (1946年)
※ 羅兄弟 p.8 参照



助けあって暮らしていたんですね。



ねん
自宅の前に立つジャクレー (1947年)



ジャクレーは、知り合いの別荘を借
りました。そして、畑でカボチャや
じゃがいもなどの食べ物を作り、鶏
や山羊も飼っていました。
農家の方にお米などを分けてもらい、
ジャクレーがお礼に版画をあげたこ
ともあったそうです。



ちようねん
蝶をとるジャクレー (1952年)



蝶のジャクレーさん！

ジャクレーは、蝶のコレクターでもあったんですよ。南洋への旅行のあと、世界の蝶を集めることに熱中しています。軽井沢でも網と籠を持って蝶をとっていたので、蝶のジャクレーさん、と呼ばれていたそうですよ。



きれいな花と蝶ですね！

こんな版画もあります。人物が描かれた作品をよく見ると、人物と一緒に植物を描いているものも多いです。植物だけの絵は珍しいですが、



ほんが
版画「仙人掌、南洋」 (1941年)

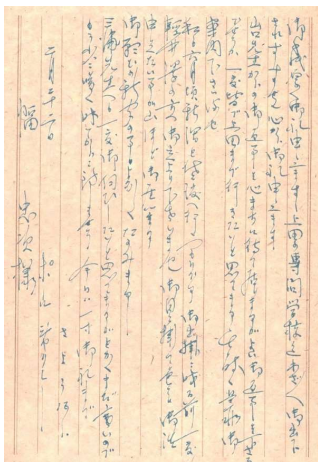
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023



ジャクレーさんは、世界の色々な国の人々の絵で有名ですね。でも、植物の絵も描くんですね。



ジャクレーは、軽井沢で暮らした
新聞記者で写真家の幅北光と交流
がありました。



ジャクレーが幅北光に出した手紙

幅北光の『軽井沢ものがたり』という本の中に、こんな話が書かれています。

ジャクレーは、戦争が終わったことを知ると、虫とり網を持って、碓氷峠に蝶をとりに出かけました。警察に、「ジャクレーさん、蝶をとって何に使うのか？」と聞かれると、「おなかが減ってしかたがないから、蝶でもとって食べようと思う」とおもしろおかしく答えたそうです。

ポール・ジャクレーと羅兄弟



軽井沢の自宅前 家族とともに (1954年)

前左から、富田聖三、羅智靖
2列目左から、羅龍煥、全奇礼、羅永煥
3列目左から、テレス、ポール・ジャクレー

一九三二年に、朝鮮半島南部出身の羅永煥が、ジャクレーの助手になりました。四年後には、羅永煥の弟（羅龍煥）も来日して、ジャクレーは二人とともに暮らすようになりました。その後ジャクレーは、羅永煥の長女テレスを養女にむかえました。羅兄弟は、ジャクレーの生涯にわたる助手、家族になりました。

信心深いキリスト教徒だったジャクレーは、聖パウロ教会や幼稚園のために多くの寄付を行いました。



ジャクレーの軽井沢の家 (2023年現在)



これがそのアトリエですか。



ジャクレーの浮世絵は、大人気で、
たくさんアメリカ軍の関係者が、
アトリエの前に行列を作りました。



近くで摺りを確認しながら、作品を
仕上げられるようにしたんですね。



一九四八年、軽井沢に、アトリエ
のある家を建てて、摺師を軽井沢
に招きました。



戦争の前に南洋で描いた絵をも
とに、版画を作ったんですね。



© ADAP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023



版画「ジャングルからの帰り、トングノ、セレベス島」(1948年)

一九四五年に戦争が終わります。
アメリカ人のコレクターで、戦
前からの友人であるスミス・
ハットンには、ジャクレーの作品
がすばらしいことを認めていま
した。戦後GHQ (General
Headquarters) の将校として
日本に来ると、ジャクレーに食
料や版画の材料を提供してくれ
ました。
ジャクレーは、一九四七年から、
版画制作を再開します。



ひびい ちゆうごく はんぎ
「翡翠、中国」の版木



それぞれの版木に色をつけて、
少しずつ色を重ねて版画を仕上げ
ます。



版木ですか？



「翡翠」という作品の版木ですよ。



とても細い線。
女の人の絵が見えますけど。



香葉ちゃん、これはアトリエに残
されていたものです。何だか分か
る？

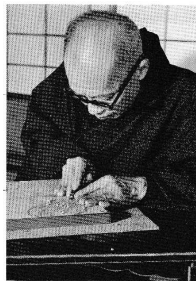


ジャクレーは、軽井沢に来てから
亡くなるまでに、七十七点の版画
を制作しています。



はんが ぼし じよせい
版画「ゴビの星、モンゴル女性」(1951年)

© AD&P, Paris & J&SP&R, Tokyo, 2023 E5023



はりし ままだけんじろう どうきよう
彫師 前田謙太郎 (東京)



すりし おのでらよしざう かるいざわ ねん
摺師 小野寺芳造 (軽井沢 1954年)



かるいざね
軽井沢のアトリエにて (1954年)



© AD&P, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023

はんが たいへいよう しんび なんよう
版画 「太平洋の神秘、南洋」 (1951年)



ずれない様に摺るのも、とっても
難しいですね。



摺師も、ジャクレーの望み通りの
色を出すのが大変だったと言っ
ています。



ジャクレーさんの作品は、色がき
れいだなあ。

ジャクレーは、色にとってもこだわ
り、一つの色を出すのに、何回も
何回も色を重ねました。



6

35

39

© AD&P, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023



40



55



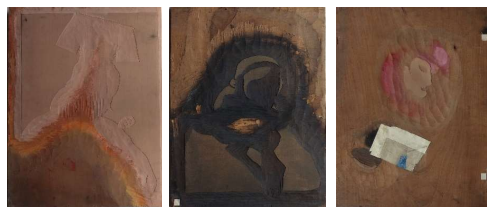
60

はんが ひすい ちゅうごく
版画「翡翠、中国」 (1940)

ぜんこうてい うち まい がらう
全工程60の内 6枚の画像



この色がここに、
この色がここに……。
見比べると面白い！





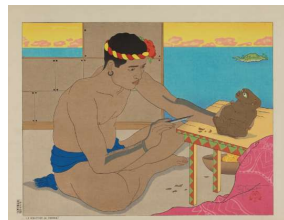
「黒い蓮華、中国」 (1959年)



「ミルクの入った器、北海道のアイヌ」 (1958年)



「心の嵐、ソウル、韓国」 (1948年)



「トコベイ島の彫刻師、南洋」 (1954年)

© ADAGE, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023



戦争の後、南洋の人々を描いた木版画は四分の一弱になり、かわりに韓国を中心とするアジア人が多く登場します。



版画「12月、日本」 (1953年)



軽井沢のアトリエにて (1953年頃)

© ADAGE, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5023

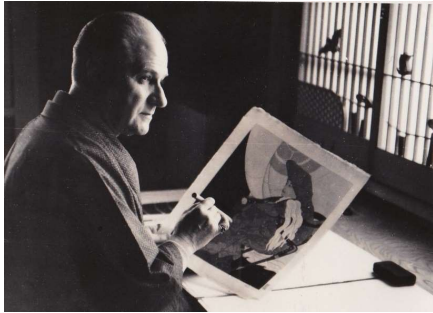


戦争の前と後で、ジャクレーさんの作品に変化はあったのかな？

この絵を見てください。背景の雪景色は、自宅でのスケッチがもとになっています。

戦後も軽井沢で制作を続けたジャクレーは、色々な国の老若男女を描いています。
美しい服を着た豊かな人だけでなく、普通の人、貧しい人も描いています。





かるいざわの
アトリエにて (1953年)



ジャクレーは、一九六〇年に六十四才で亡くなりましたが、版画の下絵が、たくさん残されています。



さらに新しいモチーフを求めたんですね。



版画は大人気でよく売れましたが、ジャクレーは、一九五四年に新しい題材を求めて、世界旅行に出発します。



版画「真夜中の祈り、モンゴル人のラマ僧」
(1959年)



戦争を経験して、心境の変化があったのかなあ。



版画「生き神さま、長野」 (1952年)



また、修行僧など、宗教的なものを描くことも多くなっています。



軽井沢・浅間山 (2022年夏)



いいですね。応援してますよ！



戦国時代を超えて、新しいことに挑戦するジャクレーさんは、カッコイイと思います。香葉も何かに挑戦してみたくまりました。



それは良かったですね。



自分の住んでいる町に、こんな人が住んでいて、こんな歴史があったんだと知ることができて良かったです。



軽井沢の地図 (旧軽井沢)



聖パウロ教会



確氷峠

これまでに出てきたジャクレーと関係のある場所を、地図で確認してみましよう。
主に、旧軽井沢と呼ばれるところです。



ジャクレーは、家族と夕方に散歩をするのを日課にしています。万平通りを下りて、矢ヶ崎川に沿って、三度山の麓や音羽の森のあたりまで歩いていただきます。



© AD&P, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 ES023

はんが きひんせき わん
版画「貴賓席」(1942年)

(ジャクレーの代表作、連作「満州宮廷の王女たち」の五作品のうちの一つ)

ジャクレーの言葉



『それ「満州セット」は、ひどく
困難かつ大きな仕事となるでしょ
う。この連作は頭抜けて価値のあ
る絢爛豪華なものになるでしょう。
私は自分の名が今日の錦絵の歴史
に残ることを願っています』

※ 『軽井沢を愛したフランス人浮世絵師
ポール・ジャクレー 全木版画展』 軽井沢
町 追分宿郷土館 (2021) , p.66(より)

ポール・ジャクレー
～軽井沢を愛したフランス人 [続編]～

発行日：2024年2月10日

作：塚越紗衣 (NPO多言語多読準会員、軽井沢町地域おこし協力隊、日本語講師)

イラスト：井出智子

写真提供：ポール・ジャクレー遺族

スケッチのサイズ：27.8×22.8cm (p2, 4)

版画のサイズ：39.2×30.0cm (p5, 9, 11, 14, 15, 16, 17)

監修：NPO多言語多読

協力：稲垣＝ジャクレー・テレーズ (ポール・ジャクレー遺族・養女)

富田聖三 (ポール・ジャクレー遺族)

猿渡紀代子 (美術史家・元横浜美術館学芸員)

軽井沢町歴史民俗資料館

追分宿郷土館

軽井沢高原文庫

<参考資料>

- 『Paul Jacoulet ポール・ジャクレー全木版画集』阿部出版(2020)
- 『軽井沢を愛したフランス人浮世絵師 ポール・ジャクレー全木版画展』軽井沢町追分宿郷土館 (2021)
- 『フランス人が挑んだ新版画 Paul Jacoulet ポール・ジャクレー』太田記念美術館 (2023)
- 幅北光『軽井沢ものがたり—私が知った高原の町』信濃路 東京農山漁村文化協会 (1973)

『多色摺木版画は音楽のようなものだ。画家、彫師、摺師の間のハーモニーが無ければ、すばらしい絵を作り出すことはできない』
※ Florenc Melis, Paul Jacoulet Wood-block Artist, The Foreign Affairs Association of Japan, 1957, pp.35-36

『何かより深いものが表現されているものでなければ、私の版画は失敗です。……芸術には大きなものが期待されており、人の心を動かし、思索や幸福感や哀感へと導いてくれるものでなければなりません』
※ Paul Jacoulet, Stewart J Trazee ed., Histoire de ma vie et mon oeuvre, 1941 (Autobiography of Paul Jacoulet, 19 pages, Unpublished English manuscript), p7



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>